

平成29年度 まちづくり懇談会

金沢地区会場の要旨

平成29年10月26日（木） 19:00～20:40

金沢地区コミュニティセンター 参加者 80名

市長：本日はお寒い中、お忙しい中お疲れのところまちづくり懇談会、大勢の皆様にご出席をいただきましてありがとうございます。昨年のまち懇は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということでこれからの茅野市のまちづくりをどんなことをしていけば良いのか、意見交換をさせていただきました。そんな皆さんのご意見を含めまして今、これから10年の第5次茅野市総合計画を策定しております。今日はそのポイントになる考え方等についてお話をさせていただき、意見交換をしてみたいと思います。また後段では「地区の魅力とその活かし方」ということで、金沢地区の魅力について「こんなものがある。それをこんな風に活かしていけばもっと良い地域になるだろう」そんな意見交換をさせていただきたいと思います。金沢には本当にいっぱい魅力的なものがあるかなと思っています。過日の「おむすびコンサート」、私は他の用事があり茅野にいませんでしたので顔出しできませんでしたが、来週には「とろろ選手権」があり、また梅プロジェクトもスタートした。本当に魅力がいっぱいだと思います。それをどう活かしてもっと良いまちづくりをしていくか、是非皆さんの忌憚のないご意見をお聞きできればと思います。お世話になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

企画部長：続きまして、このまちづくり懇談会は、金沢地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしております。それでは金沢地区コミュニティ運営協議会会長、池上泰司様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

金沢地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。今日はそれぞれ大変お忙しい中、各種団体、役員の方を中心に大勢お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日は昔から言う「市長と語る会」ということで年に1回の貴重な機会でございます。今日はまず始めに柳平市長から「第5次茅野市総合計画に基づくこれからのまちづくり」について説明ただいて、それについて意見交換をします。それから今回は私達の住んでいる金沢の魅力は何だろうと、そういったものについてみんなで再認識をし、それについても具体的な意見交換をしたいとお配りしたのについては全てではないですけど、私達サイドで検討して作成したものです。これをたたき台として意見交換していただければありがたいと思います。今日は限られた時間でございますので、気楽に本音で意見交換して今後の金沢の活性化に繋がればありがたいかなと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

市長：全体を通しての意見でも良いわけですがけれども、一応ポイントがあった方が良くないかなと思いますので、5つの切り口をお示ししました。これに基づいて意見交換をしてみたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず1点が「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということ。これは今も十分にやっけていただいております。特に金沢地区においては買い物弱者対策ということで、バスの運行もしていただいております。ありがとうございます。そういったのも支え合いの仕組みになるかと思ひますし、「おむすびコンサート」も災害対応から生まれた絆であると思ひます。それを更に強度なものにしていく。一つの拠点として公民館、空家でも良いのですが、公民館は必ずあるかと思ひます。そこを活用してもう一步踏み込んだ取組ができたら良いだろうな、とそんなことも考えています。子供達も昔は「ただいま」と家に帰ればじいちゃんばあちゃんなり誰かが居たけど、今はなかなかそういうあれでもない。公民館に「ただいま」と帰ってきたら誰かが居る、そういったこともできるのかなとも思ったりしています。どうぞ皆さんのご意見、何でもかまいません。ご発言をお願いいたします。

自主防災と言ひますか、災害対応も大事な問題になっています。この日曜の晩から私達も役所に詰めて災害対応をしていた訳ですけど、なかなか正直、避難勧告を出すのは非常に難しいと改めて思ひました。そういう中でも適格に情報は出していかなくてははいけない。本当に難しいです。例えば金沢地区に大雨警報が出たとしてもその場所によってきっと対応は違ふと思うんですね。大沢さんとか大池さんとか山を背負っている所は切実な問題になってきますし、御狩野さんみたいな所はむしろ家に居てくれた方が安全というようなことにもなります。市が避難勧告を出す時も、「金沢地区に避難勧告」と言ってもなかなか動いてもらえない。もっと具体的に「大池と大沢地区はかなりやばい」というような情報を出してやらなければ、実際問題役に立たないのかなと今回感じました。その上原地区の下町の所は本当に水が溜まるんですね。21軒、床上・床下浸水になった訳ですけど、上の段の方は全然問題ないという状況の中で、どういうタイミングでどこにターゲットを絞って情報を出してやるのが良いのか、改めて難しさと私も身につまされましたけれども、非常に細かな対応策も地域の皆様と共に構築していかなくてははいけないなと痛切に感じたところでございます。

市民：「道路・橋梁・上下水道といったインフラ施設の長寿命化・耐震化」とありますけど、2030年には電気自動車じゃないと乗れないようにヨーロッパは動いているという話と、現実に自動運転の自動車が出てくる世の中になっていますけど、高速道路を優先にやっけていくということで、一般の道路でも自動運転ができるような方向を出していただきたいということがまず一つ。それと要補修という話が出てきましたけど、5年ぐらいの間に橋が20%ぐらい使えなくなるというニュースを2年ぐらい前に聞きましたけど、そういうことは積立方式にしないといけない。例えば国の年金もそうですけど積立方式にするということで、何かを作ったらそれを作り変えなくてははいけないときに予算が無いということがないように、その修理のための積

立金を作るという制度を是非達成していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。それとトヨタと日産には電気自動車でソーラーとかフューエルセルのハイブリッドを作って欲しいとお願いをしてありますので、5年か10年かかるとは思いますけどそういうものが出てくると。今のプリウスのようなガソリンエンジンとのハイブリッドではなくて、電気がメインのハイブリッドの世の中になると私は思っておりますので、ソーラーがあれば例えばビーチでバッテリーが上がっても一日待てば帰ってこられる世の中になると思っておりますので、そういう方向でマルチハイブリッドの自動運転の自動車が普及すると高齢者も快適に過ごせる世の中になるとは思いますので、行政の方もどうそれに対応するか考えて欲しいと思います。

市長：ありがとうございます。自動運転の技術は確実に進んでいこうと思っております。今日か昨日のニュースでしたか、トラクターに人工知能を積んで自動運転でトラクターが動いていましたけど、全てに対応するとなると、実際のところはハード面、ソフト面合わせまして相当時間がかかるだろうと思います。ハード面で言うと、やはり高速道路みたいな規格の道はそれなりの対応ができると思いますけど、それを金沢地区に置き換えてみて国道から青柳の方へ行って狭い所に入って、鋭角に曲がって大沢の方に行くとなったときに、実際どういうふうにするのかなというのがあります。また対向車が来た時にどうするのかという問題も出てきて、技術的には改良されていると思いますけど、実際に実用化するときにはまだまだいろんな課題があるかと思ったり、よく言われていますけど事故が起きたときに責任の主体はどこにあるのか、作ったメーカーなのか、買った人間なのか、乗っている人間なのか。そういったこともクリアしていかなければいけない部分が出てくるかなと思います。ただ間違いなくAI・IoTの時代にはなっていくかと思っておりますので、それを見据えたまちづくりは必要になるかと思っております。それから私も詳しくありませんけど、ソーラーを使った車に限らず一つポイントは蓄電機能がどこまで向上するかということではないかと思っております。いろんなメーカーがそれに取り組んでいますし、AIの環境は自動車会社よりもグーグルだとか、そういった所の開発が先行していると言いますよね。機械としての車という切り口もあるでしょうし、情報技術という切り口からの車作りもできていて、それが渾然一体してくるのではないかなと、そんなふうに思っています。行政としてIoT、AIに対応したまちづくりをしていかなければいけないかということで、まだまだレベルの低い計画になってしまうかなと思いますけど、横断プロジェクトの中にICT推進計画というものも作っています。行政としてAIあるいはIoTに対して、また学校教育も含めましてどういう取組をしていくか、そんな基本的な計画もここで位置づけてまいりたいと思います。答えにならなかったかと思っておりますけど、お願いします。

市民：AIとかロボットを使うということは将来かなり有効だと私は考えておまして、子供が生まれたら家族でロボット1台あげるといった時代が来ても良いと思っております。

市長：ありがとうございます。他にどうぞ。4番と言いましたけれども1番に限らなくて構い

ませんので。先に2点目「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」、ものづくりのところで何かご発言ございますか？今金沢地区で高校生がいらっしゃるご家庭では、これから諏訪東京理科大学を更に良い大学にしていきたいと思いますので、是非授業料も安くなりますし、ご子弟を理科大に入学させていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

教育のところで教育長、校長先生等にお話をいただきたいと思います。

教育長：改めましてこんばんは。金沢小の特色、良さと言うといっぱいあるわけですが例えばスケート、この前テレビにも出ました。「すごい素晴らしい所でスケートができて良いね」というようなことを言われました。また緑の少年団。今年残念ながらできなかったんだけど、きのこ狩り。それから保育園との連携。これはかなり全国的に有名で指導して下さった大学の先生が本で書いたり、金沢小と保育園の子供達と一緒に交流している様子をビデオにしたり。もう一つ私が金沢小に来て嬉しかったのが資料室。あの中身が諏訪の学校の中であれだけ揃っている所は。校長先生にお願いしてあの資料室を是非活用してくださいと。そうした金沢小の持っている良さや特色を活かす中で、金沢を本当に大事にして誇りを持つ子供を育てる、その中で小中一貫教育を始めています。何が一貫かと言ったときに、一つは小学校と中学での学び方、勉強の仕方や授業のスタイルがあんまり変わってはいけない、ギャップにならないということで、そこを一貫させるということ。また子供達が生徒指導・生活指導の面で小学校と長峰中学校が繋がっている。宮川小学校の子供あるいは長峰中学校の生徒と交流を重ねて顔見知りになっていく、ということを目指した小中一貫。そうした中で、もう一方で先程市長も申し上げたように新しい時代に対応するということが必要になります。一つはICT教育、いよいよ来年から本格化してきます。例えば超大型テレビを各教室まではいかないけれども、学校に数台配置して、一人一人の授業でやったノートを映して「あの子はこう考えている」というような授業をやっていく。またタブレット、これもまだ全員とまではいかないけれどもタブレットをそれぞれの学校に配置して、タブレットを通じた授業を計画しています。もう一つ小中一貫教育で金沢小と長峰中は離れています。宮川小とも離れています。そうした中でどうやって交流するかということで、11月に全部の小中学校にテレビ会議システムを導入します。もう今、豊平小と東部中の間で実験した訳ですが、生徒会や児童会の交流、中学の先生が授業をやった様子をそれぞれの小学校に双方向で授業をする、という形を11月から徐々に導入していきます。また英語教育の方は小学校が平成32年から英語が「英語科」という教科化されます。5・6年生が70時間になります。70時間になるんだけど、小学校卒業の段階で約700語の単語を覚える。そういう文科省の計画です。しかも英語の授業は原則として担任が行う。ちょっと大変なんだけど、茅野市ではそのための準備に3年間かけようということで、今年台湾の先生をお呼びして、子供達が英語嫌いにならないようにということで、授業の見本を示してもらおうと同時に先生達の力をつけてもらうことをしています。具体的な様子等は今日校長先生方が見えているので、是非紹介してください。

金沢小学校長：日頃より金沢小学校を自分達の学校だと思って大切にしてくださってありがとうございます。今教育長から英語教育のお話がありましたけれども、今年の4月から台湾から秋先生という先生に来ていただいて、先生達と一緒に授業作りをしてくださっています。週1回なんですけれども、打ち合わせを5・6年の担任の先生が秋先生と英語でやっています。そこで打ち合わせをして、更に必要なことは携帯電話のEメールか何かを使いながら、さすがの今の若い人達は違うなという感じでやっています。秋先生が「こんな教材を使うと良い」ということを提案をしてくださって、最初の授業は秋先生と担任でやり、次の週は秋先生がいなくて担任だけでできるようにということで、担任も授業をする力がついてきています。子どもたちも秋先生と担任との授業を楽しんでいて、廊下で会ったときに英語であいさつしたり、給食もお昼の献立を放送委員の子が英語で紹介をしたりして、思わず先生達から拍手が起きることもあります。そんなふうに進めています。それから小中一貫校ということで3校施設が別なんですけれども、同じ教育理念でやるということで「豊かな学び合い」ということで同じ学習スタイルをということで取り組んでいます。私が5月に今年金沢小学校を卒業して長峰中学1年生になった授業を見させてもらったんですけれども、小学校の6年生がやっている授業のスタイルと、中学校1年生がやっているスタイルが同じでした。中学の先生にお聞きしたところ、やっぱり小学校で「豊かな学び合い」ということで2年間学習してきていて、それで中学へきて同じような学習スタイルでやるので、とても子供達がスムーズに中学の学校生活に溶け込んでいると聞きました。今は「中一ギャップ」と言って小学校と中学校の大きなギャップに悩んで不登校になったりする子がいるんですけど、金沢小学校と長峰中学校はその辺がとてもスムーズによくいっているのではないかと思います。それから縄文科教育なんですけど、私も隣にいる先生の畑から黒曜石を掘らせていただきました。子供達、自分達の住んでいる所から黒曜石が出たということで、とてもこの地域に誇りを持って良い学習ができたかなと思います。そんな状況です。

市長：今、教育長と校長先生に学校の様子をお話をいただきました。それも踏まえましてご発言がございましたらどうぞ。

長峰中学校長：日頃お世話になっております。今、校長先生からの話を中学の状況という形でちょっと補足させていただきたいと思います。市長さんの話にありましたが、これからの時代どう生きていくか。一時期、2030年問題というのがクローズアップされました。今から13年後ですので小学校1年生の子が二十歳になったときにどういう時代になっているか。人口的な推定でいくと1200万人が日本全体で人口が少なくなっている。そして65歳以上の高齢者の占める割合が1/3。そういう変化に伴って現在ある職業のうち半数は消滅するというような論も下ろされています。技術系だとか事務系の仕事の多くは人工知能のAIに捕取って代わられる。その時に自分が心配したのは私達学校の教育は生き残れるのだろうかと感じました。そんな時代に子供達にどういう力をつけたら良いのか。テストができることも大事だし、計算ができるこ

とも大事だけれども、本当に未知なことに対応したときにどう向き合って、そこを切り抜けていくかということのを大事にした授業改善をしております。小中一貫教育の中で「豊かな学び合い」ということの話があったのですが、基本的に私達が目指しているのは「どの子も一人にしない、全ての子供に学びを保障したい」ということを考えてやっております。まだまだ課題はいっぱいあるんですが、こんな交流教育を含めてこんな姿がありましたので、ちょっと紹介して終わりにしたいと思います。「小学校からずっとなかなか集団には入れない、人と関わることに非常に抵抗があって、自分が閉じこもりがちであった生徒が、そういう豊かな学び合いという授業改善の中で次第に教室に行けるようになり、最初一つ二つしか行けなかった授業が全ての授業に参加でき、そしてクラスのみみんなと一緒に卒業することができた」という、本当に子供達の持っている力の素晴らしさを教えていただきました。それから、毎年小中一貫教育の話になってから小中連携の日ということで今年も11月にあるんですが、その一つのコーナーに合唱の交流があります。中学校は全校、宮川小と金沢小は6年生、この3つの合唱をやるんですが、金沢小の子供達がものすごい総合でインパクトを与えてくれるんですよ。本校は416人です。宮川小も140前後います。金沢小は20前後なんですよ。数の上では圧倒的にあれなんですけど、金沢小さんの歌声に中学生も宮川小さんもある意味大きな衝撃を受けます。人数が問題じゃない、どう一生懸命向き合っていくかということのを本当に教えてもらいながら、中一ギャップ解消に向けて取り組んでおります。まだまだ課題はいっぱいあるんですが、このように小中、それから幼保も含めて困難な状況にどう向き合うか、そんな力を育てていきたいなど日々奮闘しておりますので、また地域の方々の支えがないとできないことですので、今後ともよろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。皆さんも聞くだけではつまらないと思いますので、自分のご意見を是非お話いただきたいと思います。先程英語の秋先生の話が出ましたが、本当はしゅう先生と言いますが「秋」と書きますので秋先生と呼んでいます。是非皆さん時間がありましたら「今度いつくる？」と聞いてその授業を見てください。本当にこういうふうな教え方をしなくては駄目なんだなと目から鱗で分かります。それ見て、自分達が何百時間費やしてきた英語の授業は何だったのかと思うぐらい。分かったか分からないか、分からないかもしれないけれども、ポンポン行くんですね。知らず知らずのうちに英語を勉強すると言うよりも、英語の世界に慣れていくという。これって英語ばかりでなくて何か教える時に使えるよなと思ったりして、私も授業を見させていただきました。是非時間があったら覗いてもらえれば、百聞は一見に如かずかなと思います。

またありましたら、どの分野でも構いません。ご発言をいただきたいと思います。「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」ということで、茅野市も広い面積を持っていて、様々なインフラ設備もしっかり対応していかなければいけない。先程、「積み立てをして対応しなくてはいけない」というお話もいただきました。本当にその分積み立てて次の更新に備えれば良い訳ですけど、正直そこまで財政に余裕がないのが現状でございますので、その中

で行き当たりばったりではなくて計画的に取り組んでいく、そんな対応はしていくところがございます。今、金沢小学校さんは空き教室はあるんですか。

金沢小学校長：空いている教室も児童会室とか活動するための教室とか相談室とかで使わせていただっていて、現在空いている教室はありません。

市長：先程若干触れましたけれども将来的に施設をどう管理していくかという中で、一つの考えとして複合化というのがございます。具体的に言いますと小学校と保育園とコミュニティセンター、これを一体化した施設にすることでより効率的な活用ができる。例えばこういう広場もコミュニティとしても使えるし子供の何かの作業をするときにも使えるし、というような使い方をしていかなければいけない。必ずしもそうでなくてはいけない訳ではないんですけど、そうすることによってより効率的なまちづくりをしていく、そんな必要も出てくるだろうと思っています。ベースになるのは小学校だと思っています。小学校をいじるときには、そんなことも一つの選択肢として考えて小学校を建てていくことも必要になるかと思っています。そんなことも含めて今、総合管理計画というものを作っています。これもいろんな場面で皆さんにご意見をいただくことになろうかと思っています。その時は是非ご発言をいただければと思います。

この「協働のまちづくり」につきましては何かご発言ございませんか。昔の社協があったそのもっと前は中央病院でしたけれども、あの所に「ひと・まちプラザ」ができて、その中に「ゆいわーく茅野」がございまして。もう大勢の方がご利用になっているかと思いますが、是非いつでも入れますので。また1階にはちょっとした食事ができる場所もございまして。是非近くに寄ったら、まだ足を踏み入れて無い方は何の用がなくとも勝手に普通に入れますので、覗いてもらえればなと思いますし、「何かこんなことしてみたいな」「今度うちの村でこんなことやるんだけど」という時に、ちょっとこういう団体と連携できたら良いなとか、もしそんなニーズがありましたらそこへ行って相談すると「こういうグループがあるから、そことタイアップしてイベントやったらどうですか」みたいな情報も提供していただけるかなと思います。是非一度足を運んでいただきたいと思います。

全体を通してでも構いません。どうでしょうか。

市民：皆様にはいろいろとお世話になっております。今区長としていろいろなことに首を突っ込んでやっている訳ですけど、特に一番感じているのが自主防災組織の関係でございまして。一応金沢区としては組織的なものはあり、金沢全体のことに対しては一応形としてはある訳なんですけど、先程市長さんがおっしゃいましたこの間の台風21号の時の連絡等に関しても、私共も夜眠れないと言いますか、川に沿っているもんですから一番心配だった訳です。こういったときに市の方から区長宛にどんなもんかと言った情報交換が必要ではないか、つくづく思いました。それから先日Jアラートが利用された件ですが、どういった対応をしたら良いのか一番気になったのですが、サイトを見たら国民保護法というものができていて、都道府県やら市

等は「迅速且つ全力を挙げて対応しなければいけない」というような法律ができているそうなんですけど、茅野市の対応、避難・誘導・その他の避難場所の開設等はどのような感じで考えておられるのかお願いしたいと思います。

市長：前段の区長さん、あるいは防災リーダーの方がいらっしゃるそこも含めて、市とのホットラインと言いますか、これは私もこの間のいろんな対応をさせていただいて、絶対必要だなと思いました。区長さんの方からでも良いしこちらからやることもあるだろうし。どのぐらいの雨が降るかの情報は市や県の方でもとれますけれど、実際そこでどういう状況なのかは地元の方でないと分からない訳です。例えば「今、こういう状況だけ」とホットラインで一報もらえれば市としても助かりますし、逆にこちらから「どういう状況かい？」とオンタイムでやり取りをしていく仕組みは絶対必要だと思いました。これから順次、それぞれのやりとりのルール化に取り組んでいかなければいけないと思います。やはり先程言いましたように、不安のある場所については余計にそのことが必要だと感じました。これはすぐにでも取り組んでまいりますので、区長さんはまた仕事が増えてしまうかもしれませんが、是非ご協力をよろしくお願いいたします。それからJアラートの件ですけど、これは一自治体としても実際に対応に非常に苦慮する問題です。特に「発射された」ということで、本当に具体的に有効な手が打てるかと言ったら、正直「No」です。その時間も無いし、だいたいJアラートが流れる頃は上を飛んでいるんですね。本当に狙って討つ気になってくれば、多分Jアラートが鳴る前に落ちていると思います。「これじゃあ無責任じゃないか」と言われるかもしれませんが、それが現実だろうなと思いました。過日も2回ありましたよね。私も鳴ってすぐに役所に飛んで行きましたけど、豊平から来たんですけど鬼場の辺りに来た時には「太平洋に落下した」というニュースが流れていましたから、何のために行くんだろうというぐらい。ただ本当にこの近くに落ちたとか、そういうときにはきちんと対応していかなければいけないと思います。市の国民保護計画においても、どちらかというとその後の対応をどういうふうにするかという部分は災害対応をベースとして計画を作っておりますので、基本的には避難というのも災害での避難場所がメインになるかと思っています。そういう計画は作っております。ただ飛んでくるのに対してすぐに何ができるかと言われれば、申し訳ございませんけども無能というか、「皆さんできるだけ物の影とかに頭を抱えて避難してください」ということぐらいしか言えないかなと。これが現実でございます、すいません。

市民：それでは次にまちづくりの基本指針というところに「恵まれた自然、景観の保全」ということがありますけれども、確かに茅野市には恵まれた自然がある訳ですけど、こういったもので自然を壊すと言いますか、ソーラーシステム等がきた場合や土地の買い上げとかでの水の問題等も非常に日本ではあちこちで言われていますけど、そんなところ茅野市ではどんなふうに考えていますか。



市長：まず水の方についてですけど、長野県内でも保全地という指定をして外国資本とかに奪われない対応をしている所がございます。茅野市ですけど幸い山の方はだいたい財産区であったり国有林であったりという形であまり水源に関係するところに個人の土地がない状況でございます。ご案内のように財産区の管理者は市長でございます。例えば売買があると言っても最終的には私が判子をつかないと売買はできません。そういう意味では茅野市は外国資本に買い取られて水源がとられるという心配はない。そういう面では恵まれていると言いますか、対応しやすいまちだなと思っております。太陽光ですけど、これはなかなか難しい案件でございます。かと言ってほっておく訳にはいかない。また太陽光自体を反対する人はほとんどいないと思います。ただどこに作ってどれぐらいの規模を作るかとなるとガラッと変わってくる訳でございます。再生化エネルギーの開発は必要なことだと私は思っていますし、それは進めていかなくてはいけない。だけど、この景観に恵まれた茅野市において節度ある開発をしていかなくてはいけないだろうということで、いち早くガイドラインを作って景観計画の中に業者に取り組みでもらうべき対応も書いております。まずは「地元の皆さんにしっかり説明をして合意形成をしてくださいよ」というときから取組を始めています。そういう中で作る時でもできるだけ道から20メートル後退をして植林でパネルの面等を保護してもらうような推進は作ってございますけれども、結論から言ってこれは100%強制力があるものではございません。詭弁であれば当然止めることができますけれども、国の指針として太陽光を認めているわけございまして、それを100%止めるということは正直できない。かなり大きな問題になっております。現に茅野市の中でも地元の皆さんとトラブルになっている関係が幾つかございますし、そういったことで地元の反対を受けて止めた所もございます。やはり節度ある開発をしていかなければいけないと思いますけれども、これが遊休農地だったりするんですよね。農地を持っている方がここに居なかったり高齢になって畑ができないと言ったときに、正直一番手っ取り早くお金になるのが太陽光なんですよ。そういうこともあって、なかなか個人の利益にも絡んでくる問題もあって悩ましい問題ですけども、先程も言いましたように地元の皆さんと行政も一緒になって、きちんとした開発をお願いしていく対応をさせていただいております。諏訪になりますけど、霧ヶ峰に日本一でかい計画があります。これは県も絡んで対応していくことになりますけど、これも茅野市にも頭の痛い問題でもございます。地元では米沢地区になりますので、北大塩区の方がメインの対策協議会もできてというところですけど、金沢地区さんも富士見に計画が進んでいるかと思っております。そういう中でそれを作ることによって土砂崩落が起きるとか水害が起きるとか、ということであれば止めることができます。ただそういったことをきちんと手当てをして計画をされると現状で駄目だとは言えないんですよ。最終的に法廷闘争になれば必ず負けます。そんな事例がありますので。それが頭の痛い問題ですので、地元の皆さんとしっかりと連携する中でそれぞれの案件に対処していくことになるかと思っております。そんな状況でございます。

市民：ありがとうございました。

市民：先程区長さんも言いましたけれども、防災の方。今回の台風でだいぶ宮川が増えて、木舟の人から消防署に電話が入りまして、消防署から私の方に「宮川がだいぶ増えて危険だ」ということで、午前3時頃木舟区を招集しまして3時頃見回りました。そのときに木舟の一部が50センチちょっとまで行って、あと1時間すると危ないかなという所でしたけど水が引けて安心したところでしたが、木舟区が金沢を全部見まして青柳と木舟がちょっと危ない状態ということで、各区長さんからも河川整備の方のお願いがいつてるかと思いますが金沢の方はだいぶ進んでいると思います。木舟の方はまだ橋から下までやっていないということで、こちらも早めをお願いします。もう一つ、少子高齢化ということで金沢もだいぶ若い人が少なくなっています。そこで同居のために新築・改築、また同じ地区に新居を建てるというような若い人がいたら是非補助金でも出して、その地区に居て貰うような考えがあれば良いなと思います。よろしくをお願いします。

市長：前段の防災の関係でございますけども、ありがとうございます。月曜日の3時ということですね。特に今回宮川、上川がだいぶ増水しまして、上川の今回の床上浸水も上川の河床がだいぶ上がっていたのではないかなと。これはまだ100%検証した訳ではございませんけども。そんなことで宮川の河床の掘削、またそれに入っている所の河床整備も計画的に取り組んでいるかなと思います。またお気づきなことありましたら、具体的な要望をいただければと思います。よろしくお願いいたします。金沢大橋の周辺は順次やっていく件も計画ではあったと思いますので、またしっかりとお伝えしてまいります。また後段の住宅への補助ということで、ストレートな補助は茅野市にはございません。自治体によっては50万とか100万補助というのがありますけど茅野市にはストレートにはなくて。ただ改修事業で子育て世代の改修には、10万の補助の制度がございます。まるまる新築に対しての補助はないです。そんな状況で今すぐ新築への補助ということとはとりあえずは考えていませんけども、少子化・人口減少対策としてどういうふうに位置づけていくかということになるかと思えます。

ちょっと地域の課題も入りましてけども、せっかく「地域の魅力とその活かし方」について素敵な資料を作っていただきました。まずご説明をいただいて、これを含めての意見交換をさせていただきたいと思えます。

金沢地区コミュニティセンター所長：お疲れ様でございます。私の方から資料1の「地域の魅力とその活かし方」の資料について若干の説明をさせていただきます。限られた貴重な時間でございますので簡単に説明させていただければ良いかと思えます。意見交換のきっかけになれば良いかなと思えます。よろしくをお願いします。1番から11番まで書かせていただきました。地域の資源ということで1番「金沢宿にあった梅並木」、小学校の校章も梅の花をデザイン化しているということでございますし、梅プロジェクトチームも平成28年にでき平成29年の春には金沢公園に100本の梅の木を植樹しました。将来的には梅の実も利用して昔の金沢、梅

並木であった「梅の里」の構想を考えております。またその梅プロジェクトの協力者・活動者、そういう人達も増やしていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。2番の「おむすびコンサート」でございますが、これこそ金沢の特色ある文化事業であるかと思っております。平成26年2月の雪害を機に繋がった松本市を中心とする中高生との絆でございます。この15日に、先程市長さん達からのお話もありましたけれどもコンサートがございました。あいにくの雨でしたけれども、250名を超える観客で盛り上がった所でございます。ただ感謝の気持ちから始まったコンサートということで、お金を出してプロを呼んでくるといったコンサートではございませんので、限りがあるということでこれからも続いていけば良いかなと考えております。3番の「とろろ選手権」でございます。主催が今日も大勢きておりますけれども金沢体協ということで、戦後の食糧事情がまだ悪い頃に泉長寺の和尚さんが若者達にとろろ汁を腹いっぱい振舞った、そんな所から始まっているという云われがある会ということで、非常に楽しい行事ということでございます。私もまだ出ていませんのでよく分かりませんがそういう話を聞いておりますし、各種報道等を見ますとほとんど茅野市の名物行事ということになっているかと思っておりますので、これについても宝なのかなと考えております。4番「金沢の伝統行事」ということで、金沢区の祇園での長持ち、木舟区の灯まつり・長持ちがでございます。5番「金沢体育協会の存在」ということで財産という「もの・こと」とは違いますがけれども昭和22年金沢村文化体育協会が前身で、スケート・野球等の普及から地域スポーツの振興を主に地域の活性化に非常に貢献していただいている、ということでございます。金沢体協は伝統的に親から子、先輩から後輩へと世代を越えて繋がってきており、この団体・人こそが地域のまとまりや地域の活性化に貢献しているということで、これこそが金沢地区にはなくてはならない宝だと私共感じております。6番「金沢財産区と金沢小との共同行事」ということで、緑の少年団、キノコ狩り遠足、シイタケ菌打ち等と山の財産の良さを子供の頃から体験することで山の大切さや魅力に触れているということで、財産区の方が全面的にバックアップしてくれております。7番「金沢小の校庭スケートリンク」ということで、金沢地域おこし協力隊の方達何人も来ていただいておりますけれども、地域おこし協力隊の方が唯一本当に関心を持ったとか、興味を示しているものでございます。昭和33年から60年近い歴史と伝統があるということでございます。このリンクの管理・運営につきましても、金沢体育協会が主体となって公民館や小学校のPTAとも連携し毎晩のようにリンク作りをしていただいています。まさに地域と一体となって小学校の子供達を育てている象徴的な事業だと思います。8番「金沢地区スケート大会・体協スケート記録会」でございます。毎年1月に分館・自治会対抗で開催されているスケート大会でございます。市内でも金沢地区だけが継続しているということでございます。子供達はもとより、老若男女が練習の成果を披露する伝統的な大会ということでございますが、若干地球温暖化の影響でございますか、1月上旬にいつも開催していた大会ですが今年は次期をずらして1月下旬ぐらいに開催しようということで、2年連続でできなかったということもありますので時期をずらすことを計画しているようです。9番「地区としての一体感（まとまり）」ということで、小規模な地区であるが故に各種行事等、区・自治会のような一体感と盛

り上がりが私も来て感じました。保育園・小学校も各学年1クラスであってみんな顔見知りであり、区・自治会単位の子ではなく金沢っ子というような感じがしております。非常にまとまりが良いと感じております。大人になってもその状況が継続しており、その一体感こそ宝かなということ。10番「金沢の名所、史跡の見える化」ということで、平成24年からマップ・ガイドブックの作成を始めて、平成26年に「金沢の未来を考える研究会」が中心となって作らせていただきました。ここで平成29年から3年計画で史跡の説明看板を作るということで、今年に関しては6ヶ所の整備を考えている所でございます。ウォーキング等に利用していただくということで金沢まちづくりを進める1つのツールとして活用していきたいと考えております。11番「観光まちづくりDMOとタイアップした金沢の魅力の再発見と活用策検討中」ということで、金沢の行事・イベント・史跡・料理・農産物・環境・景観等それぞれの活用をDMOのメンバーが中心となっていていろいろなヒントをくれている。そんなことで農家民泊といったことも説明会が先程ございました。ここには書いてありませんけど、こうやって見ていくと「もの・こと」というよりも「心」そんな感じがしておりますけど、教育長や校長先生がいる中であれですけど、本当に金沢小学校が中心にいつもあるのかなと感じております。小学校を大切にしようとしている金沢地区の地区民の人達の「心」、そこが一番の宝なのかなと感じております。

市長：説明ありがとうございました。こうして見ますと金沢にはいろんな良いものがあるなど、改めて思っています。11番に「観光まちづくりDMOのタイアップした金沢」とございますけど、今「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」の所でもご説明しましたけど観光まちづくりを進めております。その進める兵隊と言ったら失礼ですけども、地域おこし協力隊という方、都会あるいは県外から13名茅野市で採用しております、そのうち10名ぐらいが旭ヶ丘のサンコーポラスにお邪魔しております。立派な金沢地区民でございますので、是非いろんな所に声をかけていただいて引っ張り出して、仲良くしていただければなと思います。それぞれ良い意味で専門的な知識もございますので、いろんな所で参考になるかなと思いますし、本人達も地域も皆さんと仲良くしたいと思っておりますので、今度のとろろ会にも何名かお誘いをいただいたということで大変喜んでおりました。大いに活用していただきたいと思っております。本当にお世辞ではなくて良い取組があるなと思っておりますし、自慢のいろんなことがあるかと思っております。是非、普段感じていること等ございましたらご発言をお願いいたします。まずはせっかくですので体協さんご発言をお願いします。

市民：私達はたまたま今体協をやらせて貰っている訳で、ざっと見ましても恐れ多い大先輩方が何名もいまして、そういう方々の長い歴史の中で体協があるかと思っております。先程から紹介されておりますが4日にとろろ会があります。当日参加も受け付けておりますので、機会がありましたら是非ご参加をよろしく申し上げます。あとスケートリンクはこれから管理が始まる訳ですが、これも皆さんの協力をいただきまして立派なリンクにしたいと思っております。よろしくお

願います。

市長：ありがとうございます。本当にいろんな面で体協さんはまちづくり・ひとづくりの活動をしていただいております。感謝を申し上げます。体協さんがあるということで一つの核になっているということで良いですね？会長さん、ご発言を。

金沢地区コミュニティ運営協議会会長：書いてあるとおりです。どちらかと言うと金沢は人が減ったりもして店もない、飲み屋もない、ないない尽くめがキーワードのような話合いがあちこちでされているんですけど、でもある話ってなかなかされていない。体協の会長さんなんて当たり前のように役員を選出して、当たり前のようにボランティアで毎晩やって仲間ができています。これを今日再認識していただいて、さらに拍車をかけてもらえばありがたいという思いで作成しました。ですから、ざっと計算して今日は体協のOBの皆さん、たくさんおられます。今13人ぐらいで役員をやられているんですけど、2年任期とした場合に60年たつと6人抜いた場合360人ぐらいOBがいて、金沢のまとまりの一つには金沢体協というものがベースになっているのかなど。私も区長でも7年も8年も一緒に役をやったんですけど、そういう自負心はあります。ですからいつも体協さんの活動については非常に素晴らしいなと思って感心しながら見ている所です。他にも良いところありますけど金沢の全てを書きあげた訳ではなくて、主だったものはこんなもんかなど、言葉足らずのところはありますけどまだまだ他にも良いところあります。悪いところを探すのもいいですけど、良いところをもっと探し合って地域の活性化にどう繋げていくかと維持向上の部分と、できれば村おこしに繋がるのがあって人口減少を少しくい止めて、何が何でも金沢へ残したいということではないですけど、東京へ出て国の為に活躍する人もいるだろうし、世界で働く頑張る人もいるだろうけど、そうは言ってもある程度金沢に戻ってきていただいて、金沢で体協さんに入ったりしながら金沢のことを考えて活性化してもらえればなど、そんな想いでたたき台として作らせていただきました。宿場町も今は寂れた状況ですけど、じゃあどうしていくかと知恵を出し合うといった場面もいろんな面で検討してまいりたいと思います。何かありましたら地区センターなり私なり情報をいただければ一緒に検討したいと思います。

市長：ありがとうございました。是非、皆さんと意見交換、せっかくですので自慢話でもかまいませんのでしていただきたいなと思います。

今年の春には金沢公園に梅の木を植樹していただきましてありがとうございます。私もずっと前から「梅、梅」と言ってきた人間でして非常に嬉しく思いましたし、校長先生とも話しましたけれども金沢小学校の記念樹は未来永劫「梅」で良いのではないかなって思っています。結婚した人にも結婚記念樹で運協からプレゼントするとか、そんなのも面白いかなと思いますし、金婚式の方にも「梅」。構想20年後には結構きれいな「梅の里」になっているんじゃないかなど、夢見る所でございます。ただ「やれ」と言ってるだけではいけませんので、市の方

も地区に活動資金というものを、頑張る地区にはしっかりと支援をしていく、そんな仕組みづくりを進めていますので、そんなことも是非念頭に置いて魅力あるまちづくりをしていただきたいと思います。市としてもシティプロモーションということでいろんな発信をしていますけど、そのベースとなるのはそれぞれの地区、あるいは区・自治会な訳でございますので、金沢地区が発信すれば茅野市の発信にもなる訳でして、先程言いました地域おこし協力隊も使いまして取組みを更に進めてもらえればなと思います。とろろにも毎年呼んでもらって、私も14杯ぐらいを目安に頑張ってますけど、そこが限界かなと思いますけど。これも主旨が違うからそれがイコール「これが良い」という訳ではありませんけど、とろろ選手権って仕掛ければ世界に発信できるイベントになるかなと思います。牛追い祭とかトマトを投げつけるお祭りとか世界中にあるじゃないですか。それに匹敵するぐらいの仕掛け方によっては祭になるんじゃないかなといつも私は思いながら、そういう意味ではもったいないなと。でもやっぱり地域の皆さんが交流を図る想いも良しかな、と思いながらとろろを食べているのが現状でございます。今回地域おこしの皆さん、結構良い意味でびっくりして「これ、何とかしたい」と言う、人気が出てくるのではないかなと思っています。

職員：この3月まで所長としてこちらにいました。今ここで話していたのが、「梅プロジェクト」の裏話をしますと、（横断幕を）「プロジェクト」というような形をお願いをした所、実際にできあがってききましたのがああいう形になっておりまして、「レ」の所に鍵をかけて「ロ」にしようかという形で当日考えたんですけど、市長さんの方から「あれはあれでいけ」というような。市長さんのせいにしてはなりませんけど。返って味があって良いかなと思っています。本当に金沢地区の皆さんにはお世話になって、先程から出ていますけど地域として一体感がある感じがあります。何かお願いするとすぐ動いてくれますし、そういう所ですごくやりやすい地区だったのかなと思います。私もまだ金沢の方にずっといるつもりでありますので、いろいろと協力できるところは協力していきたいと思っています。ありがとうございました。

市長：目が合いましたのでふりましたけど。プロジェクトで「金沢ちょっと訛っているんだよ」というノリで、私は良いと思いますけどね。英語の発音なんて日本人が喋るような発音を外国人はしませんもんね。全然分からないような発音だから。「梅プロジェクト」良いですよね。

どうぞ何なりとご発言をどうぞ。せっかくの機会でございます。地域の困っている話題でも良いですし、前段の第5次総合計画についてでも構いません。全てを通しましてご発言ありましたらどうぞ。

よろしいでしょうか。無理して引っ張ることもないかなと思います。皆さんのご意見をお聞きしたかった訳ですけど、また「とろろ」の機会もございますし、いろんな機会で見聞交換や皆さんの想いを聞けたらと思っています。先程もありましたホットラインをどう作っていくか

ということをすぐにでも取り組んでいきたいと思っていますので、是非区長さんにはまた余分なお仕事になるかと思えますけどもご協力をよろしくお願いいたします。本当にお疲れのところいろんなお話をさせていただきました。また皆さんからもお聞きしました。皆さんのご協力に感謝申し上げます、平成29年度のまち懇はこれで終了させていただきたいと思えます。本当にありがとうございました。

企画部長：本日は大変ありがとうございました。お帰りの際は恐れ入りますけどもアンケートのご協力をよろしくお願いいたします。夜でございますので、お気をつけてお帰りいただきたいと思えます。本日は大変ありがとうございました。